



3年ぶり 石巻港に寄港

ぱしふいっくびいなす

日本クルーズ客船(株)=大阪市=が運航する大型客船「ぱしふいっくびいなす」(定員620人、総トン数2万6594ト)が11月3日、石巻港大手埠頭(ふとう)に3年ぶり10回目の寄港をしました。コロナ禍に伴い、地域の皆さんを対象にした船内見学会などは中止を余儀なくされましたが、ツアー客の皆さんはいしのまき元気いちばなど、市内の観光施設巡りを楽しみ、まちの魅力を堪能していました。

客船が埠頭に到着する際は、自治体職員や観光ボランティアが大漁旗を振ってお出迎え。観光案内や物産販売コーナーを設け、下船した皆さんがごぞって買い求めていました。

夜の出港セレモニーでは、雄勝町伊達の黒船太鼓が勇壮な演舞を繰り広げたほか、午後8時の出港時には135発の打ち上げ花火とペンライトで見送りました。 〇 観光課(内線3537)



歓迎し、地域の魅力発信

身近なことから！SDGs

Sustainable (サステイナブル:持続可能な)
Development (ディベロップメント:開発)
Goals (ゴールズ:目標)

SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくための世界共通の17の目標です。

SDGsと聞いて、「なんだか難しそう」「遠い世界の話」と思っていませんか?実はSDGsの取り組みはとても身近にあり、日常生活の中ですでに取り組んでいることや取り組めることがたくさんあります。そんな「実は身近なSDGs」について、紹介します。 〇 SDGs移住定住推進課(内線4224)

災害に強いまちづくり

SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」を構成する10個のターゲット(細分化した目標)には、環境面や交通の安全性の改善、建造物の整備など、様々な視点から見たものが掲げられていますが、防災に関する視点もターゲットの1つとなっています。市では一人一人の防災意識を醸成し、地域における防災力の向上を図る取り組みを行っており、災害に強いまちづくりを推進することでゴール11の達成を目指しています。



防災編

石巻市防災サイン

災害発生時にいち早く安全な場所への避難が行えるように、避難場所への誘導や避難先の建物を示すほか、東日本大震災での津波の記録を表示する防災サインを設置しています。設置する場所に合わせた表示内容で、市民の方だけでなく、石巻に土地勘のない人や津波の記憶がない人、将来の子もたちへ情報を確実に伝えていくことを目的としています。 〇 危機対策課(内線4309)



防災について、学んでみませんか

市の職員が講師となり、洪水ハザードマップや津波避難タワー、自然災害・原子力災害に関する講座を開催しています。より詳しく防災について知ることも備えの一つとなりますので、ぜひ学んでみませんか。

- 〇 生涯学習課(内線5072)
- 〇 危機対策課(内線4305)

他にもさまざまな講座が開設されています

講座メニュー 「洪水ハザードマップの活用とマイ・タイムライン」
「みてみよう!津波避難タワー」
「自然災害から身を守る防災対策」
「原子力災害に備えよう」



緊急災害情報が携帯電話に届きます

気象情報や災害情報が携帯電話に配信されることで、暴風の際に聞こえにくい防災無線(屋外スピーカー)の内容も文字で確認することができます。配信方法は、メールまたはLINEを使用します。非常時の情報収集は大変重要ですので、ぜひ登録をお願いいたします。 〇 危機対策課(内線4310)

【気象情報】
気象・警報、気象・特別警報、土砂、地震、津波
【災害情報】
避難所開設情報、新型コロナウイルス情報、踏切遮断情報など



みんなのた場



たのしみ会

笑い絶えない集いの場

「たのしみ会」は桃生町寺崎地区の1・2班に属する地域住民の皆さんで構成するサークルです。もともとは市社会福祉協議会のサロン活動の一環で、平成28年に設立。現在は男性4人、女性8人が所属し、会員の平均年齢は80歳を超えています。

代表を務める西條ふき子さんの自宅に月に1度集い、体操や合唱、百人一首などのレクリエーションを実施しています。集いは、会員の都合の良い日時を決めて行うので、曜日などは決まっています。たのしみ会はその名の通り、「皆で集い、世間話や昔話などに花を咲かせながら、和やかに楽しい時間を過ごすこと」を大切にしています。会員の中には独り暮らしの方もおり、住民同士で会話ができる貴重な居場所となっています。

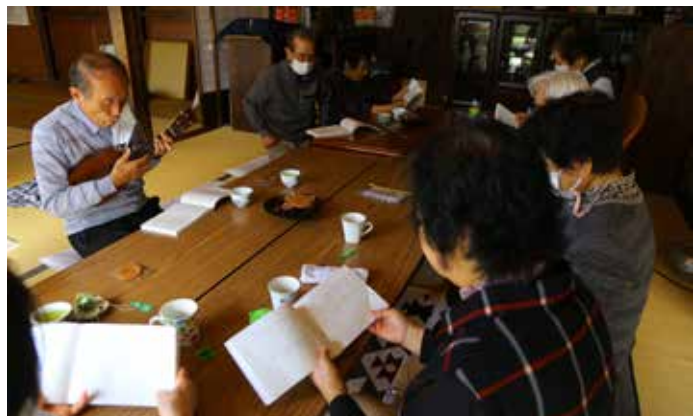
こうした集いやサロンは、どの地域でも男性の参加率が低い傾向にあります。たのしみ会に所属する4人の男性陣はほぼ毎月欠かさず出席しています。今春、妻に先立たれ、独り暮らしをしているという男性は「家にいるともやもやして、気分も暗くなってしまうので、誰かと一緒に居られるというだけで精神的に助かっているんです。こうして皆で集まり、会話をすることがこんなに楽しいものなのかと、最近ほほえみを感じています」と話していました。

10月下旬に行われた集いでは「おらほのラジオ体操」で汗を流したほか、会員のウクレレ伴奏に合わせた唱歌の合唱を楽しみました。お昼には皆で料理に励み、出来上がりを食しながら、交流を深めました。また、この日は年代毎に自分を振り返ったり思いのままに色々な事を書きとめておける「思い出ノート」が参加者に配られました。

西條代表は「皆、月に1回のこの集まりを心待ちにしているんです。何を繰り返しているのかはその時の皆の気分次第。今後も笑いの絶えない楽しい会にし続け、地域の親睦を図っていききたいです」と話していました。



たのしみ会の皆さん



ウクレレ伴奏に合わせて唱歌の合唱を楽しみました



123

濁音化現象

石巻市文化財保護委員 谷川正明

東北地方全般で、清音が濁音として発音される現象が見られる。石巻地方でも、「高い」はタガイ、「肩」はカダと、共通語では清音の音が濁音で発音される。

しかし、「肩」は、ガダとはならないように、語頭のカ・タ行の音は濁音化しない。語中と語尾のカ・タ行音が濁音で発音されるのが原則である。

また、「大きい」がオッキイ・「八十」はハツチューと、

カ・タ行音の直前の音が、ツ（促音）の場合は濁音化しない。同様に、「寒天」はカンテン、「身長」はシンチョーと、直前がン（撥音）の場合も清音となる。さらに、「北」はチタ、「助ける」がスケルとなる。

これは、カ・タ行音の前後の音が、声帯を使わない無声音の場合である。

このように、濁音化現象とは、カ・タ行の音が、声帯を用いた母音・有声音に挟まれた

場合の現象と定義できる。例外として語頭のカ・タ行音が濁音化する語もある。「蟹」がガニ、「カバン」がガバンなどである。

また、「釘」のような本来濁音で発音されるガ行の音は、鼻濁音の[n]で、クギ(ギは発音を表す言葉)であり、「茎」が濁音化するクギなので、区別ができる。さらに、「旗」が濁音化すると、ハダだが、もともと濁音の「肌」は、ハンダと、ダの前に軽い鼻音が入るので区別できる。

解説すると回りくどくなるが、石巻人は何ら戸惑うことなく、この法則に完璧にのっとりて整然と転訛している。

石巻専修大学

「研究室をのぞいてみたら・・・」

石巻市と石巻専修大学は、地域社会の発展と人材育成および学術の振興を図ることを目的に連携協定を結んでおり、協力して研究活動が行われています。ここでは、地域連携事業の研究成果の一部をご紹介します。

その4 まちづくり・将来モビリティ・再生可能エネルギー

毎日の生活のための近距離移動には、小型の電動車、いわゆる小型電動モビリティが望まれています。そのようなモビリティを安全に楽しく使うためには、歩行者天国のような、歩行と小型電動モビリティでの移動にしたまちづくりを考える必要があります。また、歩行者の安全のためには近づいていく時のスピードを知らせる機能や速度を制限する機能などの安全機能があると安心できます。



地域での近距離移動を小型電動モビリティで実現する立場から考えると、地産電力の活用が適切です。石巻専修大学のある石巻地域は、年間を通じて日射量が多く風の強い地域であり、風力と太陽光を活用することが有力になります。そこで、風力発電装置と太陽光パネルを組み合わせたハイブリッド発電システムを使って発電量を調査しています。地域コミュニティの中で、シェアリングによる

利用を前提とすると必要となる電力量を推定しやすくなります。

毎日の生活での使用パターンと発電量の変化をモデル化して必要となる発電設備の仕様を決めることにより、最少のシステム構成で地域の電力を賅うことができます。



北上 懐かしさと楽しさ一緒に

12年ぶり北上の12年ぶりまつり



北上にっこりまつりが12年ぶりに開かれました。震災後に地域を離れた方々も久々に集い、観光客も含めて約5千人が足を運びました。十三浜のワカメやホタテ焼きなど飲食物販がずらり。木工教室や瓦を割る体験コーナー、人気ゲーム機が当たる抽選会など皆さんで楽しめるイベントが盛りだくさん。「仮面ライダーリバイス」に出演した地元出身俳優の小松準弥さん(石巻観光大使)、歌手の遠藤正明さん(石巻観光大使)のステージにもぎわいました。



石巻 縁をつないだ「仮面ライダーBLACK」

フルート奏者・吉川さん演奏収録

フルート奏者の吉川久子さんが10月16日に石ノ森萬画館を訪れ、配信用動画の撮影を行いました。吉川さんの父は東映でプロデューサーを務め、「秘密戦隊ゴレンジャー」「仮面ライダーBLACK」など多くの石ノ森作品を手がけました。吉川さんは常設展示されている仮面ライダーの前で「仮面ライダーBLACK」のエンディング曲を奏でました。この模様は動画配信サイトなどで視聴できます。



河北 大自然の暮らしから我が家へ

市営上品山牧場でメス牛退牧

上品山にある市営牧場で放牧されていた繁殖用メス牛の退牧が10月28日にありました。5月20日からの161日間、広大な放牧地で思い切りのびのびと過ごしました。大自然の中、太陽の光を浴びて運動した牛は引き締まった体となり我が家へと帰っていきました。



雄勝 筆、墨、硯、紙の4産地一堂

雄勝で文房四宝まつり

書齋の4つの宝である筆、墨、硯、紙の4産地が一堂に会する伝統的工芸品フェア「第21回文房四宝まつり」が10月22日、23日、雄勝硯伝統産業会館で開かれました。まつりは旧雄勝町町制施行50周年記念で平成3年に始まり、市内では平成24年以来10年ぶりの開催です。訪れた人は職人による実演で手作りの技に触れ、制作体験を通じて生活風土に根差した工芸品や伝統文化を身近に感じていました。



河南 秋の収穫に感謝込めて

4年ぶり新米ふるさとまつり

「第6回新米ふるさとまつり」が10月16日、国指定名勝・齋藤氏庭園で開かれました。まちおこしの一環で企画され、平成26年に始まり、その年に収穫された新米(ササニシキ、ひとめぼれ)で作ったおにぎりが振る舞われました。本来は庭園内で深まる景色を眺めながら食べるのが恒例ですが、4年ぶりの開催となった今年は、コロナ禍もあってテイクアウト形式となりました。



桃生 違法薬物を自己防衛

桃生中学校薬剤師招き

桃生中学校は10月20日、3年生68人を対象に薬物乱用防止教室を開きました。講師を務めた学校薬剤師の佐々木潤子さんによれば、近年はスマートフォンの普及で違法薬物が売買しやすくなっており、興味本位で手を出す若い世代が多いです。乱用のきっかけは誘いを断りにくい友人や恋人であることがほとんどで、生徒たちは薬物から身を守る3つのルールや困った時に相談できる居場所作りの大切さを学びました。



牡鹿 有事のために

原子力防災訓練

10月29日に宮城県原子力防災訓練が行われ、3年ぶりに住民避難訓練が実施されました。原子力災害では広域避難を必要とする場合もあることから、牡鹿地区・荻浜地区の住民が、大崎市の旧富永小学校までバスでの避難に参加しました。今回の訓練では、避難所での受付を簡単、迅速にするため、スマートフォンのアプリを使った受付も行われ、参加した多くの方が体験していました。

